

体験・分科会概要

(別添2)

10月7日	表記番号	体験・分科会名	講師及び担当	概要	場所	募集人数	備考(持ち物など)
9:00 ~ 16:30	A P	能勢1日山村留学 山村留学の実践から自然体験を考えよう ふるさとと自然と暮らしを活用したプログラムづくり	NPO全国山村留学協会 山本光則氏 元公立中学教員・山村留学保護者 三好惇二氏	子どもの生きる力を育むためには、力をあわせ自然を守り活用してきた昔の暮らし体験が大切です。農山漁村の自然と暮らしを活用した自然体験活動について、能勢地域の素材を見た体験を踏まえて、一緒に語り合しましょう。	町内及び研修室	5~25人	筆記用具、雨具、水筒、帽子
9:00 ~ 12:00	A - 1	日本型、日本的を考える	日本型環境共育推進協議会 田中利男氏 日本の自然観実践研究会 新田章伸氏	菅井先生の基調講演を受け、日本型や日本的な自然体験活動の事例を紹介し、意義や展開について参加型の進行で深めていきます。	研修室	2~30人	クリップボード、筆記用具
	A - 2	ネイチャーゲーム入門編	大阪府ネイチャーゲーム協会	米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏によって発表された自然体験プログラムです。自然への気づきを目的とした活動で、身近な自然を誰でも楽しむことができます。多くの自然体験活動の場面で活用されています。(入門版)	野外	1~30人	筆記用具、帽子、雨具、レジャーシート(小)
	A - 3	ツリーイングで森と友達になろう	Tree master climbing academy Tree-ingClub青空	ロープを使った木登り「ツリーイング」をとおして、普段と違った視点と感覚で木や森の不思議を体感できるプログラムを実施。(午前、午後とも同内容)	野外	5~15人	運動のできる服装、水筒、雨具
	A - 4	名前を言わない観察会	大阪自然環境保全協会	里山保全活動発祥の地、ここ能勢で野生動物の住む世界を観察することから、里山を感じてもらいます。	野外	1~15人	雨具、帽子
	A - 5	秋の自然を食べよう	NAC 西田省三氏 大阪府青少年活動財団	今回は、センター内でのキノコ採集を中心に食べられる木の実などあれば採取して、昼のキノコ汁などを作って食べる体験です。	野外・食堂	1~10人	雨具、軍手、帽子
	A - 6	森づくり	大阪森林インストラクター会	「間伐」や「下刈り」などの森林整備は、豊かな「森づくり」にとって欠かせない作業です。最近では、環境教育の観点からも、自然体験活動や小・中学校などの総合学習の時間に、体験学習の一環として実施される機会が増えてきています。(午前、午後とも同内容)	野外	5~20人	長袖、長ズボン、軍手、タオル、水筒、しっかりした靴(トレッキングシューズなど)、雨具
	A - 7	カヌー体験	野外センター職員	一人乗りのカヤックを、初めての方でもできるようにライフジャケットをつけ、操作方法を練習してからセンター内の池でのカヌーの体験(指導は野外センタースタッフ)	剣尾池	1~20人	ぬれてもいい服装、着替え、タオル、雨具
13:30 ~ 16:30	P - 1	木と学ぼう! PLT体験会 (プロジェクト・ラーニングツリー)	PWきょうと 中川貴之氏	木を題材にアメリカで子どもたちを対象に開発された環境教育プログラムを体験します。プロジェクト・ワイルドの姉妹編です。	第3と野外	5~15人	動きやすい服装、筆記用具、クリップボード、帽子、雨具
	P - 2	ネイチャーゲーム最新編	大阪府ネイチャーゲーム協会	米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏によって発表された自然体験プログラムです。自然への気づきを目的とした活動で、身近な自然を誰でも楽しむことができます。多くの自然体験活動の場面で活用されています。(最新版)	野外	1~30人	筆記用具、帽子、雨具、レジャーシート(小)
	P - 3	ツリーイングで森と友達になろう	Tree master climbing academy Tree-ingClub青空	ロープを使った木登り「ツリーイング」をとおして、普段と違った視点と感覚で木や森の不思議を体感できるプログラムを実施。(午前、午後とも同内容)	野外	5~15人	運動のできる服装、水筒、雨具
	P - 4	名前を言わない観察会	大阪自然環境保全協会	いつでも、どこでも、だれにでも出来る自然観察をグループで体験します。名前を知ること大切ですが、今回は五感を研ぎ澄まして身近に多くの自然があることを知る事を体験します。	野外	8~15人	水筒、筆記用具、帽子、雨具
	P - 5	森づくり	大阪森林インストラクター会	「間伐」や「下刈り」などの森林整備は、豊かな「森づくり」にとって欠かせない作業です。最近では、環境教育の観点からも、自然体験活動や小・中学校などの総合学習の時間に、体験学習の一環として実施される機会が増えてきています。(午前、午後とも同内容)	野外	5~20人	長袖、長ズボン、軍手、タオル、水筒、しっかりした靴(トレッキングシューズなど)雨具
	P - 6	落語家に学ぶ場の読み方	桂 福車師匠	桂 福車師匠の落語を聞き、その演出の仕方や場の読み方などの解説を受けたのち、受講者も2~3分の話をし、場の読み方、感じ方の振り返りを行うワークショップ形式で進めます。	研修室	1~15人	クリップボード、筆記用具
	P - 7	ハートプログラム	野外センター職員	人間関係トレーニング・グループワークとしてアイスブレイクから始まり、自己紹介やグループの課題達成を心と体を使って実習する中でコミュニケーションや人間関係に気づく活動	グラウンド	8~15人	運動できる(汚れてもいい)服装、タオル、帽子など
	P - 8	牛乳パック再利用の「エコ紙漉き」体験	シニア自然大学 (12み4会 米村倭文子氏、堀内信彦氏)	紙漉き体験!牛乳パックなどのパルプを利用して「世界でたった一つのハガキを作ろう」紙の原料は主に木材からつくられています。紙の再利用で貴重な森林資源を守る気持ちを持ってもらう。	研修室	10~30人	筆記用具、タオル、古新聞2,3枚

オープニング	能勢浄瑠璃「能勢三番叟」	能勢人形浄瑠璃 鹿角座	能勢三番叟とは、土地の豊かさと発展を願って歌い、舞う芸能のひとつです。三番叟の精神を受け継ぎながら、能勢という土地にちなんだ能勢らしい風情を込めた新しい三番叟。能勢の行事、名所、特産物などが盛り込まれています。
基調講演	「日本人にとって自然とは」	京都ノートル女子大学心理学部教授 菅井啓之	日本という風土に根ざした自然の見方は、そこで長年生活し生き抜いてきた民族の歴史であり、財産であり民族の心であるとも言える。それが文化というものであろう。文化とはその国、その民族の個性なのである。世界が均一化し、同質化していくことは個性を失うということである。それぞれの国の自然に応じた自然感をもってその国で生きるのがもっとも自然でいいのではないだろうか。個性を生きたるものの内的価値、絶対的価値に目覚めることが重要であろう。文化はまた文字であり言語である。(日本の自然感の現代的意義から抜粋)
講演	地域に根ざした環境教育の実践「かやぶきの里から未来が見える」	京都府美山 柿ノ木山プロジェクト 代表 高御堂 厚	江戸時代は、今よりも自然との共生が暮らしの中に息づいていた時代。世界に誇るリサイクル社会はそこにはあった。わたしたちは、いつのときも自然に生かされてきた。今このときも大きな自然の恵みの中に生かされている。そのことを感じ、感謝しながら暮らしていきたい。